



### 第100号

本紙は、ピースボート災害ボランティアセンターが、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙です。  
毎月10日、25日発行。

## 100号に寄せて

創刊して約3年10か月。「仮設きずな新聞」は100号を迎えました。今日まで支えてくださった皆様、心から感謝申し上げます。100号発刊に際し、これまで支えてくださった方々―読者の皆様、団地の自治会長さんや世話人さん、助成金団体、新聞配布ボランティア―を代表し、4名の方にメッセージをいただきましたので、ご紹介させていただきます。

## 支援に感謝し、自立と復興目指す

平成23年3月11日の東日本大震災は、同時に膨大に、かけがえない大切な人や営々と築き上げてきた財産を一瞬にして奪い去る悲惨さだった。以来、被災者としてのいろいろな困窮の中で、生活上の安心・楽しみ・喜び・覚悟・希望そして再建方針等々に関して、情報により伝達方法の重要性を再認識した。

あれから4年4か月、仮設住宅で暮らす中で、ピースボート災害ボランティアセンターの「仮設きずな新聞」の月2回の無料配布をはじめ、各分野・方面からの支援に感謝しながら、健康・経済等の問題に対し、自他の対応に向き合ってきた。これからも心を寄せて頂きながら、自立に向けて何とか頑張るしかないと思っている。

## 仮設きずな新聞に関わられたことを誇りに思う

私が初めて石巻を訪れたのは2011年6月。青いビブスを着たピースボート(PBV)のボランティアが、商店街で泥かきをしていました。辺り一面、ヘドロのおい。それは私に、幼い頃の記憶を呼び起こしました。8歳のとき、家が洪水にのまれ、私たちは全てを失いました。私は30年間閉じ込めていたこのトラウマのような経験を、石巻で思い起こすことになったのです。

私が初めて石巻を訪れたのは2011年6月。青いビブスを着たピースボート(PBV)のボランティアが、商店街で泥かきをしていました。辺り一面、ヘドロのおい。それは私に、幼い頃の記憶を呼び起こしました。8歳のとき、家が洪水にのまれ、私たちは全てを失いました。私は30年間閉じ込めていたこのトラウマのような経験を、石巻で思い起こすことになったのです。

援団体「アメリカケアーズ」として東北に来ました。「日本の力になりたい」というアメリカ人の温かい寄附を受け、震災直後から仙台に拠点を置き、宮城・福島・岩手の100以上の団体と共に被災者支援を行ってきました。

被災された方々の心のケアには長い時間がかかると思います。アメリカケアーズ日本支部の代表として、人々がもう一度希望を持てるように様々な手を尽くすPBVのような素晴らしい団体と出会い、「仮設きずな新聞」に助成してきたことを誇りに思います。ベビースマイル石巻や雄勝歯科診療所の河瀬聡一郎先生、リオグランデ、そしてPBVと活動を共にし、私は「英雄(hero)」という言葉の本当の意味を理解できたように思います。真の英雄たちと出会い、彼らの深い知恵と広い心から多くを学びました。

私がここで得たものと同じくらい、アメリカケアーズも東北に多くのものをもたらせていると良いなと思います。大切なものを失った悲しみは消えませんが、私は東北で暮らし、仕事をできたことに本当に感謝しています。訪問初日のヘドロを思い返すことは、もうありません。「東北」を思うときに頭に浮かぶのは、仮設住宅でお茶っこしたこと。三陸の海の幸を美味しくいただいたこと。かつて家のあった場所にPBVのボランティア達が畑を作ったこと。夏祭りやボランティアと石巻の人達が共に歌い踊ったこと。アメリカ人に日本のことを聞かれると、私は石巻がいかに美しく、素晴らしい人々であふれているかを話します。

アメリカケアーズ  
ラモナ・バイマ  
(和訳: 岩元暁子)



# 石巻市内仮設住宅の歴史



5月 ● 市内で最初の復興公営住宅、根上り松住宅の入居が開始

9月 ● 復興公営住宅の第一回募集の事前登録の募集が始まる  
● 復興公営住宅を建設するため、雄勝町の仮設水浜団地が解散



2013年 (平成25年)

2月 ● 第1回読者アンケート実施  
● 「文通ボランティア」を開始。2013年3月までに計5回実施、166人が参加

3月 ● ボランティアの減少と資金難のため、「仮設きずな新聞」休刊  
● 仮設住宅での「お茶っこ」終了。全70団地を対象に1,270回実施、のべ9,383人の住民の方々が参加

4月 ● 読者アンケートの結果を受け、「仮設きずな新聞」の再刊に向けて動き始める

6月 ● 「仮設きずな新聞」再刊編集体制を一新し、医療・健康や心のケア、街づくりなどに取り組む5団体と共に紙面づくりを開始  
● 再刊を機に、石巻市内の仮設住宅全戸(約7000戸)に配布を開始

7月 ● 製薬会社サノフィの企業ボランティアが「仮設きずな新聞」の配布ボランティアに参加。以後、不定期にボランティア派遣を継続

8月 ● 米国の人道支援団体「AmeriCares (アメリカアーズ)」の助成金が決定

12月 ● 埼玉の浦和学院高等学校の野球部生徒が「仮設きずな新聞」の配布ボランティアに参加。以降、毎年ボランティアに参加

2月 ● 市内の仮設住宅の入居戸数が6,500戸を下回る

7月 ● 復興公営住宅の第二回事前登録が募集開始

11月 ● 市内の仮設住宅の入居戸数が6,000戸を下回る



2014年 (平成26年)

3月 ● 第2回目の読者アンケート実施

5月 ● 石巻市の「地域づくりコーディネート事業」補助金の採択が決定

6月 ● 「仮設きずな新聞」編集部メンバー8名+石巻地域の方々が神戸を視察。阪神淡路の復興まちづくりを学ぶ

7月 ● 昨年度に引き続き、AmeriCaresの助成金が決定

8月 ● 武蔵野大学(東京)の学生約60名、全国の大学ボランティアステーションの学生約30名が「仮設きずな新聞」の配布ボランティアに参加

2015年 (平成27年)

2月 ● 若者の就学就労支援を行うNPO「石巻NOTE」の利用者さんが「仮設きずな新聞」の配布活動やデータ入力のボランティアに参加

7月 ● 第3回読者アンケート実施

8月 ★ 「仮設きずな新聞」100号発行

